



## ホームページの新潮流

# “Web 2.0”ってな～に？ ブログ編

登場人物は...

薬学部の大学生: 舞 

大学の先輩: 大輔 

薬局の主人: 修一郎 

料理店の親父: 通称“仙人” 

### 【前回までのあらすじ】

紆余曲折の末、ブログを取り入れた修一郎の薬局のホームページが完成した。聞くとところによると、ブログは、“Web2.0”というインターネットの新しい流れの中の一つだと言う。興味を持った舞は、仙人に教えを乞うことになったが・・・

## 仙人、Web2.0を語る

速いものでキーボードを包丁に持ち変えて10年が過ぎた。その間にインターネットは一変した。ネットで手軽に買い物をしたり、動画を見たりできる現実を目の当たりにすると10年の重みをしみじみと感ずるのであった。

「まるで、浦島太郎だな」

魚を焼く手を休めて、ぼそりと呟いた。

そこに舞がやってきた。

「こんにちは」

「どうだい。ホームページの方は」

「ようやく構想が固まりました」

「どんなホームページにするの？」

「ブログを使うことにしたんです」

「目の付けどころが良いね。ブログは、“Web2.0”を象徴する新しいサービスの一つだからね」

「その“Web2.0”が良く分らないんです。修一郎おじさんから聞かれて困っているんです」

「ひと口で説明できるようなものではないよ」

「簡単に教えてくれないでしょうか？」

「今日は、お客も少ないから早めに店を閉めて僕の考えをご披露しようか」

「ラッキー！お願いしマース」

仙人は暖簾を降ろして、店じまいの仕度に取りかかった。最後のお客が勘定を済ませると、さっそく仙人の講義が始まった。

「“Web2.0”って奇妙な名前だと思わないかい」

「う～ん。“2.0”って何ですか？ブログがそうだといわれても、全くイメージが浮かんでこないんですけど、“Web1.0”とか“Web1.5”とかいうのもあるんですか？」

「2.0という数字には、深い意味はないんだよ。新しいと言うだけなんだ」

「そうなんですか」

「“Web2.0”の“Web”は特定の製品を指しているものではなくて、強いて言えば、Web全体、広く解釈するとインターネット全体という意味なんだ」

「なんだか、ますます分らなくなってきちゃった」

「日本では、去年（2006年）の始め頃、『ウェブ進化論』という新書がベストセラーになって知られるようになったけれど、2004年の10月に米国のテ

イム・オライリーという出版界の重鎮が『What is Web2.0』という論文の中で始めて使ったんだよ」

「へえ～。日本に来るまでに1年以上かかったんですね」

「“Web2.0”を理解するためには、昔のインターネットがどんなものだったのかを知る必要があるよ」

## 昔のインターネットって？

「何年くらい前の話ですか？」

「10年くらい前かな」

「舞はまだ小学生だったから、ぜんぜん分りませ～ン」

「地下鉄サリン事件や阪神淡路大震災などの大きな出来事があった年だから僕は良く覚えているけれど、1995年に、今のWindows VISTAの先祖とも言えるWindows95というOSが発売されたんだ」

「名前だけは聞いたことがあります」

「夜中に長い行列が出来たりして大変な騒ぎだったんだ。テレビのニュースにも取り上げられて、一種の社会現象になったんだよ」

「何でそんなに話題になったんですか？」

「1つは、Windows95が誰でも使える機能を備えていたこと、そして、もう一つが、インターネットへの期待感があったことだろうね」

「インターネットが始まったのはその頃なんですか？」

「いや、もっと古くて、1970年代には使われていたんだよ。長い間、専門の技術者しか使っていなかったんだ」

「こんな便利なものを、独占していたなんてずるいですね」

「そうじゃなくて、普通の人には、難しくて使えなかったというのが、正しい見方だね。電子メールを送るために、自分たちで電話線を引いたり、試行錯誤してプログラムを組んだりする作業が必要だったんだよ」

「ふうん」

「その頃のインターネットは工事中で、関係者以外立ち入り禁止だったということだよ。それに、パソコンも、今のように誰でも使えるものではなかったんだ」

「どんな感じだったんですか？」

「呪文のような命令文を打ちこむというやり方だったんだよ。Macは最初から使いやすいインターフェースを持っていたけど、その頃主流だったIBM-PC互換機というパソコンを使っていた人たちは、Windowsが使い物になるまで待つ必要があったんだ」

「Macのほうが使いやすいなら、Macにすれば良いような気がしますけど...？」

「そう思うよね。でも、すでに会社で使われているパソコンもIBM-PC互換機が主流になりつつあったし、IBM-PC互換機とMacはソフトの互換性がないから、Macを使うとなるとワードやエクセルなんかを買い直す必要があったんだ。」

「そっか。だからWindows95が出たときに、みんな喜んだんですね」

「もう一つのエポックメイキングな出来事は、WWWとブラウザの発明だね」

「WWWはホームページの入れ物という解釈で良いですか？」

「そうだね。WWWを使えば写真や音楽が送れるというので、みんな大喜びをしたんだ」

「今では、当たり前ですけどね」

「特に、IEの元祖のMosaicという最初のブラウザが出たときは、まさに熱狂状態で、それを開発したマーク・アンドリーセンと言う若者は時の人になって、TIMES誌の表紙を飾ったくらいなんだ」

「その人、どうなっちゃったんですか？」

「最近、聞かないなあ。IT業界は、浮き沈みの激しい世界だからね。その頃のホームページは紙芝居のような原始的なものだったんだ。使い方は、会社案内や商品紹介が主な用途だったんだ」

## ホームページ 進化の紆余曲折

「エー！紙芝居ですか？今はブログも動画もあるし、全く違いますよね。いつ頃から変わってきたんですか？」

「舞ちゃんは、2001年の9月11日に、ニューヨークで起ったテロのことは知っているね」

「はい。ビルに旅客機が衝突する映像は今でも覚えていますよ」

「あの時、安否情報をやり取りするために、ボランティアたちが“ブログ”と呼ばれるホームページを自分たちで作って使い始めたんだ」

「自分たちで始めちゃうところがすごいですね」

「安否を確認するためには、それまでのホームページのように一方的に情報を発信するだけでなく、『ここにいますよ』っていう情報を入力したり、ホームページ同士で情報交換したり、履歴を自動的に残したりする機能が必要になったんだ。それが、ブログのトラックバックやコメントの機能だよ」

「ホームページが進化を始めたんですね」

「ちょうどその頃、ネットワークの世界ではADSLや光ファイバーを使ったブロードバンドという技術も出てきたんだ。この波にもうまく乗ってホームページが急に変わり始めたんだよ」

「へえ～。物事は技術と社会的な要請が組み合わされて進んでいくんですね」

「そうだね、生物の進化を真似て書くとこんなとこかな」

## インターネット開発の目的

「ところで、舞ちゃんはそもそもインターネットが何の目的で作られたか知ってる？」

「テレビや新聞のように情報を伝えるためじゃないんですか？」

「実は、軍需目的で作られたんだよ」

「エッ、戦争と関係していたんですか？」

「今から30年くらい前は、アメリカと、今はロシアになっているソ連が、核兵器を後ろ盾にして争っていたんだよ」

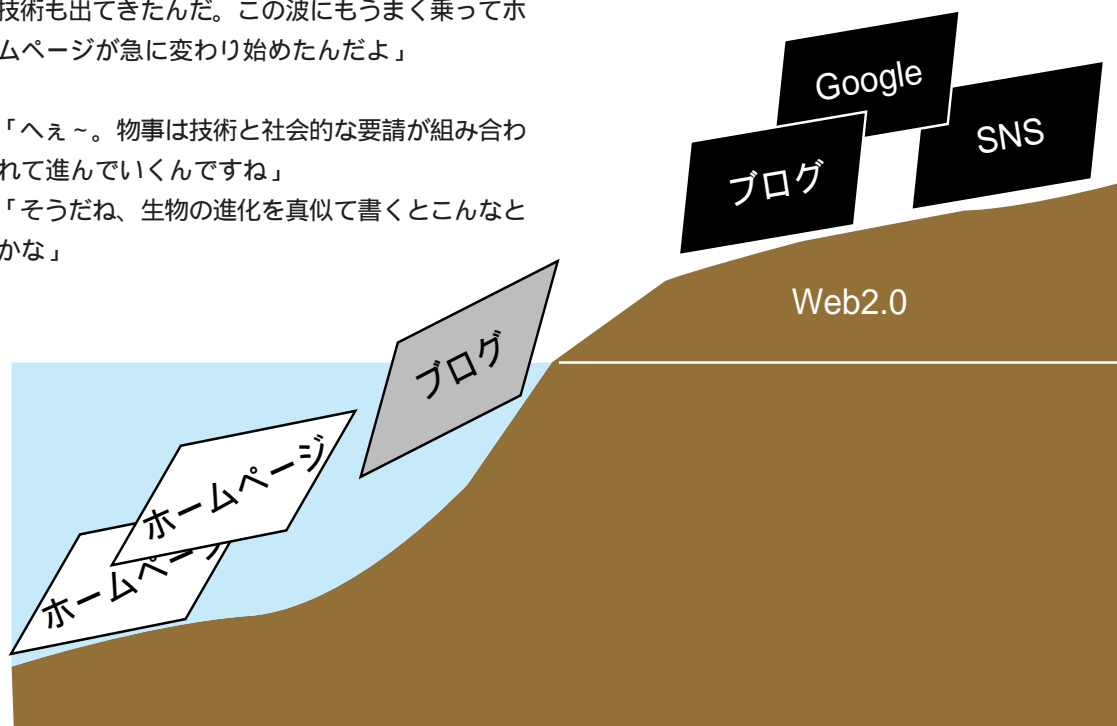
「米・ソの冷戦時代ですね。歴史で習いました」

「その頃は、IBMや日立が今でも作っている大型コンピュータが主流だったんだ」

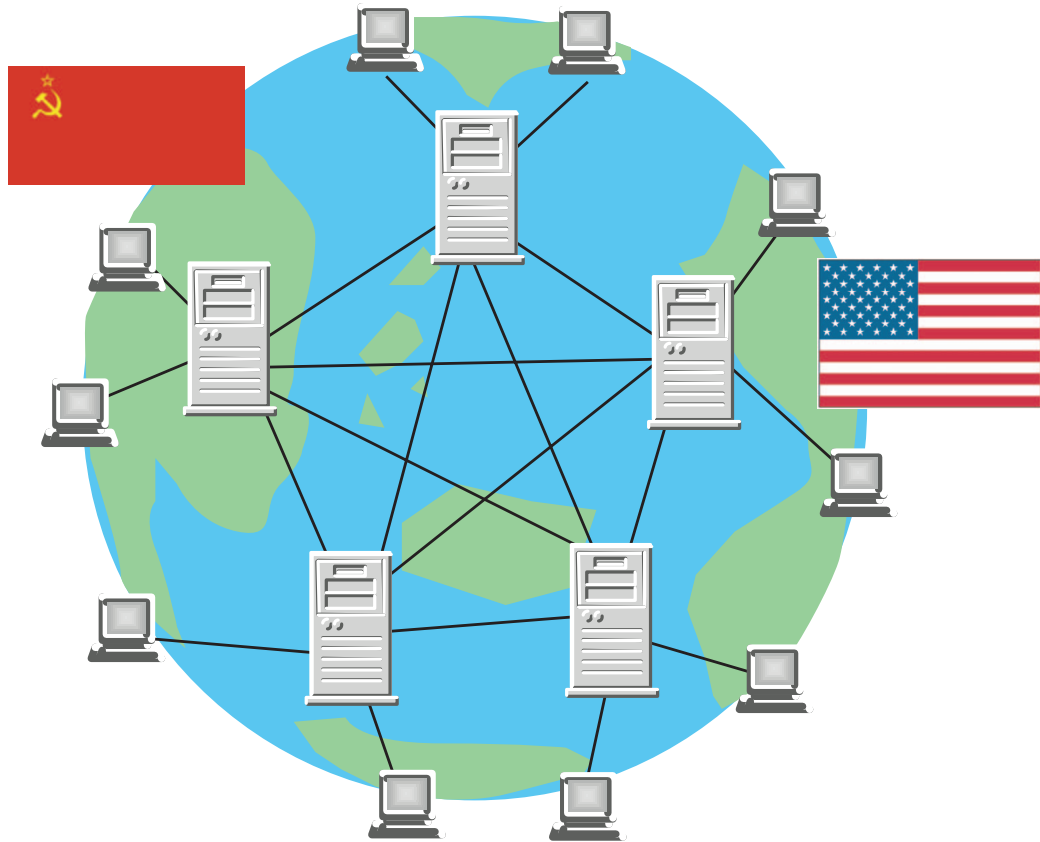
「大学の計算機センターのガラス貼りの部屋にある巨大なやつですね」

「大型コンピュータは、中央の制御装置から線が出ていて、先っぽに端末機がつながる構造になっていたんだ」

「蛸の足みたいな感じですか？」



ホームページの進化



攻撃に強いインターネット

「そうそう。その制御装置がネットワーク全体をコントロールしていたんだよ」

「中央がやられたら、全てが麻痺してしまいますね」

「だから、その当時の研究者は、膨大な国家予算を使って分散処理ができるネットワークを研究していたんだ」

「…ということは、その研究の成果がインターネットになったということなんですね」

「その通り。そのインターネットが、何十年後に、テロと言う戦争の犠牲になった人たちを助けるのに使われたと言うのは皮肉なものだね」

「インターネットで世界中の人たちが理解しあえるようになって、早く戦争なんてなくなって欲しい

ですね」

「僕もそう思うよ。インターネットは、人類の英知の結晶なんだからね。ということで、今日は時間切れ。来週からは、もう少し詳しく核心のところを話すよ」

「よろしくお願ひしまース」

“Web2.0”のさわりの講義が終わった。当たり前のように使っているインターネットにも、長い歴史とドラマがある。次回の“Web2.0”の核心とはなんだろうか…。舞は思いを巡らせながら、魚心を後にした。

次回に続く…